

未知との遭遇？万能？

のび太 「何か世の中にいいものってないかなあ。」

ドラえもん 「しょうがないなあ、これ使いなよ のび太くん。」 ジャジャーン

「どこでもシューズ〜。これなら外でも部屋の中でも履き替える必要がないんだ、便利だろのび太くん！世間ではうわばきとも呼ぶよ。」

のび太 「これはすごいよ！ありがとうドラえもん。」

(本当は4コマ漫画でやりたかった)

新しいうわばきは、一部の新年少さんにとっては水陸両用車を手に入れたかのごとくです。これは彼らにとって、新しい文化の始まりですから仕方のないことでもあります。こちらもそれを悪いこととして捉えない理由に、土足でクラスの部屋の中に入っていき子はいないからです。それが何故かを分かっているように、これからうわばきの意味も分かっていくのでしょう。本当に日々、年少さんの姿、様子は変わってきているのが分かります。だんだん、という言葉がふさわしい年少さんです。

年中さん、年長さんで一番変わったのは何か!?と聞かれれば、答えはもちろん、自分が進級したというモチベーションの高さです。ひとつ上の学年になるということがこんなにも彼らを高揚させるのか、と感心してしまうほどです。大切にしていってあげたい気持ちのひとつです。

なんといっても今けやき業界を席捲しているのがニワトリ〜ヒヨコラインです。その内容等はクラス便りやお子様の語りでおわかりいただけと思うので割愛します。今回あえて私がスポットを当てたいのはニワトリのほうです。ヒヨコが生まれてうれしい、かわいい！これは分かります。物語の始まりのお父さんお母さんにあたるニワトリ、愛想もなければ表情もない、考えてることも分からないニワトリを、子どもたちは何故あんなにもいじくり倒し、抱っこし、愛でているのか!?そして何より、こんなすっとなきょうでトボけた顔したニワトリが、こんなにも子どもたちに刺激と変化を与えてくれるなんて！！想像力から期待感、クラスの一体感や責任感その他含め、その先にあるのは子どもたちの笑顔。いずれクラスの一員のように一緒にいるのが当たり前になっていくあのニワトリってマジ不思議！

皆さんが以下知らない、ここから下余計、と思うとは思いますが、考察しちゃったので聞いてください。ニワトリはイヌやネコのように、しっぽを振って喜んだり、餌が欲しいと甘えてきたりといった仕草や表情がないからこそ、子どもたちにとっては、「そんなことしちゃかわいそうだよ」「きっと喜んで！」というような感情移入がしやすいのではないだろうかと考えた次第です。お人形さんあそびの進化系のような・・・と。大人って残念な生き物ですねえ。私って、ですね、失礼いたしました。G・W、緩めず楽しみましょう！

*今月のねらい(育ててほしい姿や経験してほしいこと)はクラスだよりでお知らせします

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- 一人遊びを充分楽しむ
- 友達の名まえやマークに興味をもつ
- みんなでいるところで遊んだり、見たり聞いたりすることの楽しさを知る
- 園生活の流れがわかり、身の回りの始末を自分でやろうとする

4歳

- 園生活のリズムになれて活動や遊びにすすんで参加しようとする
- 自分の意見が言える(うれしいことや悲しいことを自分なりの言葉で表す)
- 相手のことも聞こうとする

5歳

- 自分がしたいと思う遊びをくりかえし楽しむ
- 今日、明日何をするという短期の目的だけでなく、比較的長期の見通しが漠然とでもわかって行動できる
- 互いに言いたいことが言える(認め合い)